

さ ん り ん し ゃ

始良市立錦江幼稚園 園だより

Phone 63-2038

FAX 63-2034

とびっきり の おいしいかお！



心をこめて 手づくりで

先日（6日）、給食試食会に併せて食育講演会を実施しましたが、お忙しい中に参加していただきありがとうございました。

「食育について」小園美樹栄養教諭に話をさせていただきました。

開口一番、「給食はレストランのランチではありませんよ、ちゃんと目的があるんですよ」と言われたことも含め、思い出しながら読んでください。

まだ私が現役の頃、勤務している学校に児童養護施設から通ってくる子どもたちがいました。その子どもたちの中には、友だちとけんかをしたり、先生に注意されたとき、すぐに「ごめんなさい」と言えない子がいました。これはよくわかります。自分を大事にしてもらえない家庭の雰囲気や家族の絆など命の苗床である家庭で育ってこなかったから、相手の立場に共感できないし、相手を大切にできないのです。

前にも話をしたと思いますが、お父さんお母さん方には子どもに対して、「あなたの喜ぶことをしてあげることが私の喜びだよ」という気持ちで接してほしい。そして、「あなたの悲しみは私の悲しみなんだよ」という気持ちを発見してほしいと思います。

「ぼくは、わたしはお父さんお母さんに大切にされている」という実感、安心感は、こういうところから感じとっていくのだと思いますと。

食育講演会

給食には目的があります。バランスのとれた・・・



給食試食会

お母さんと一緒に給食をいただきました。



こうした子どもとの向き合い方は、小さいときに、まだ赤ちゃんのような頃がもっと大切です。思春期になって、問題が見えてきたときにあわてて対応するのは、なかなか難しいものです。もちろん、大きくなってからでは手遅れ、というものではありません。いつからでも遅くないという気持ちで接することは大切です。いつからだって可能性はあります。

では、子どもたちに対して、親としてできることはなんでしょうか。絶対音感のような、幼児期に形成されるものではなく、いくつになってもできること。

愛情がしっかり伝わる方法、たとえ現在、親子の関係が多少ぎくしゃくしていたとしても、もう一度お互いの信愛を取り戻すのには、どんな手立てがあるでしょう。そう難しいことはありません。

子どもの気持ちを満たしてあげるのに、有益な方法は“手づくりの養育”とでもいえばよいかもしれません。なぜかといえば、手づくりには心がこもりやすいからです。

手づくりができなくても、心がこもっている養育や教育のやり方はいくらでもあるでしょうが、心をこめやすいことと、そうでないことがあるのも事実です。

どの年齢の子どもにも日常的にしてあげやすい、あるいは機会が多いということで、食事の用意（家庭での食育の基本）を手づくりすることなど、もっとも心をこめやすいことだと思います。手づくりしていくうちに、自然に心が



こもってくるというお母さんに数多く出会ってきました。ひとつの大きな愛情表現です。

「おいしいものを食べさせて怒る人はいない」というお母さんの言葉に表されるよう、「朝ごはんを食べていない子どもたちの姿と家族ばらばらの寒々しい食卓」に国が「食育基本法」なるものを制定したのです。「食育」は本来、「家庭の仕事」だと思います。

こういうことが日々できなくなってしまったのはなぜなのかということを考えなければならぬと思います。

「食」についてそして、親子関係について考えるよい機会となったと思っています。



抱きしめるだけで通じあえる

子どもを抱きしめることは、とても大切なことです。赤ちゃんや幼児はもちろん、思春期の子どもだってそうです。なぜなら、抱きしめるほうも抱きしめられるほうも、両方が喜びをわかちあうことができるからです。

抱きしめられた記憶は、子どもに深い安心感や、相手に対する信頼感、自分に対する肯定感、そして自信を育みます。

さらには、人を思いやる優しさを自然と学びます。(^ _ ^)

